



SHINRAN
750th

「ごたごたあわせる 掌のぬくもりを」

御遠忌通信

第1号



あかり とも

発行日 2018年5月1日
責任者 宮尾 隆造
編集 御遠忌実行委員会
連絡先 長浜教務所

〒526-0059
長浜市元浜町32番4号

TEL 0749-62-0737
FAX 0749-62-0754

御遠忌実行委員会 委員長挨拶

「生きる力を伝える」

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌が一年後に迫ってまいりました。教区人全員で形作る御遠忌とすべく寺族、門徒挙げて実行委員会が組織され、「儀式部」「参拝部」「事業部」「情宣部」の各部に別れて鋭意準備を進めていただいております。

当御遠忌では「今、いのちがあなたを生きさせている」をテーマとし、「いただく」あわせる 掌のぬくもりを」をスローガンに、そして「生きる力を伝えよう」を願いとさせていただいております。いずれも今を生きる私たち、もっと言えば社会全体でいただいているという「人類に捧げる教団」としての願いが込められていると思います。さらにこれをどう受け止めていくかは「テーマ」の設定に見られるように、それぞれが自問してほしく思うのではないでしょうか。

そして、「ごつした願いやテーマは、私たちの先達が宗祖のみ教え、信心に80年間問い続けてこられた事柄であり、そして後を生きる人たちが

伊吹 惠鐘



もまだいただいでいられるものであるでしょう。

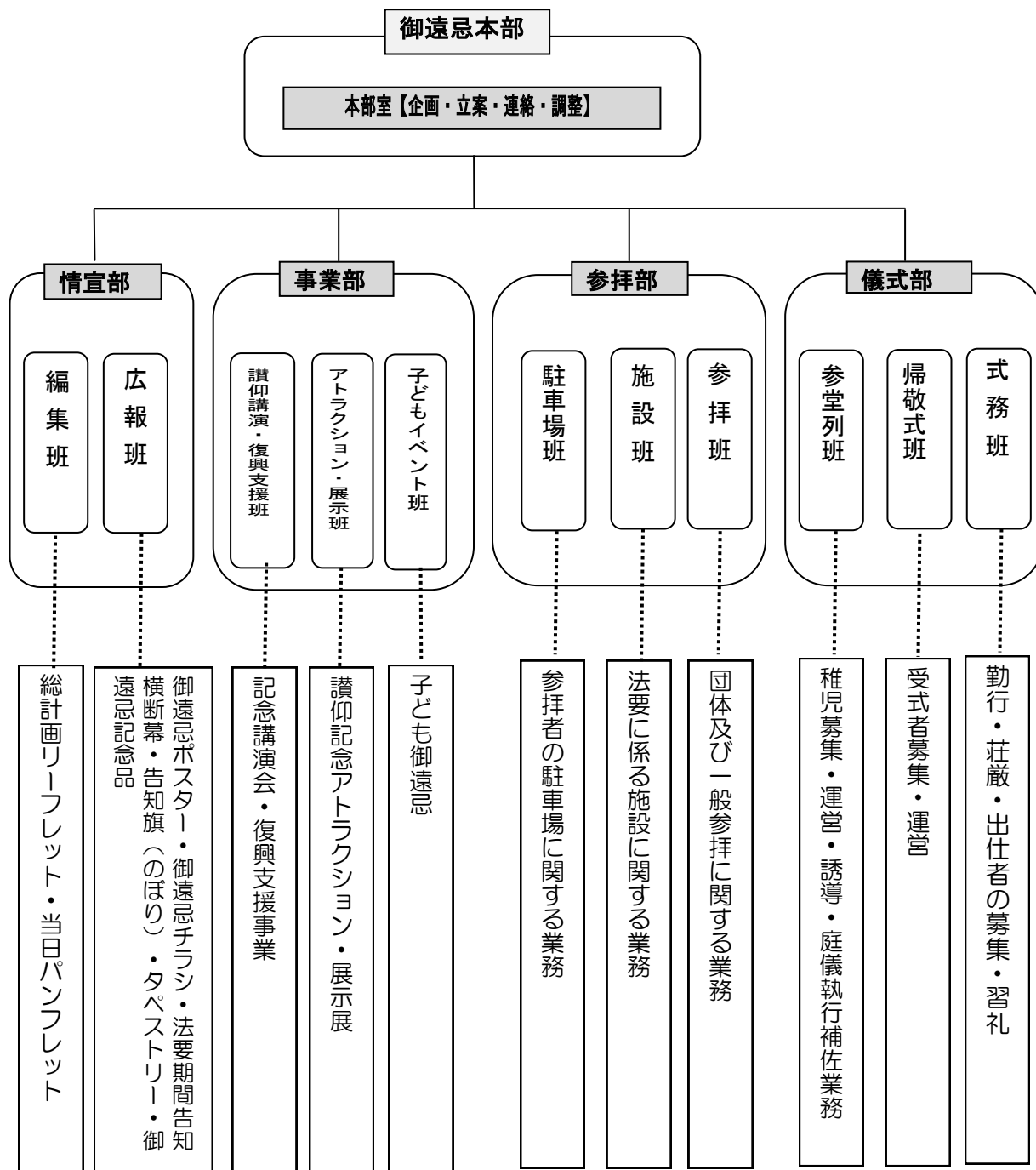
そうすると願いを共にする私たちは、回信の先達（過去）の生き様を訪いつつ、今（現在）をどのように生きていくのか、何を生きる力としていくのかを改めて確かめていかなければなりません。そして私たちの生き様を後の人（未来）がまた訪うことになるのではないのでしょうか。

過去から未来へと永遠に続くいのち（願い）の伝承の真っ只中で、今を生きる私たち一人ひとり、皆同じ繋がったいのちを生きている。そしてそのいのちの繋がりにぬくもりを感じそれが生きる力となる。

御遠忌もそのいのちの繋がりが表現されたものとなるように、皆さんの総意を結集して準備を進めていきたいと思いますと考えております。何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



教区御遠忌実行委員会 組織について



1173年（1歳）

親鸞誕生

1181年（9歳）

親鸞、慈円のもとで出家

宗祖親鸞聖人の 七百五十回御遠忌法要に向けて

第13組門徒会長

瀬戸川恒雄

寺離れが進む中、平成の初めころの報恩講と大きく変わったのは、すべてがイス席になり、男性は背広にネクタイかカジュアルな服装に、女性もズボン姿となり、着物を着ている人はなくなりました。参加者は女性の参拝者が多く、男性の参拝者は役員以外で7人でした。夫婦で来られる人は珍しく、ほとんどの世帯が一人で参拝され、孫を連れて来られる祖父母はおられません。

子どもの頃は、正信偈の唱和も大きな声を競ってはりあげ、お堂内がうなっていました。純朴に素直に、阿弥陀様の恩の深いこと信じ喜んで、「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えておられたように思えます。

報恩講に集まってこられた門徒さんに話しかけますと、多くは方々は、「家の中で誰か一人はお参りしたいと思っておりますが、主人がお参りしてくれないので、私がお参りしました。」とおっしゃります。

義務感からお参りし、尊いご法話を聴聞したことを、いつの間にか世間の



報恩講での子どもたちによる灯明点火

価値観に押し流され、たとえ忘れてしまったとしても、人の真心から出てくる言葉や説法は人の心に刻み込まれ、やがてどこかで芽が出てくるでしょう。

若い年行事さんは、「仕事が忙しく、村にあるお寺は、村の風景の一部にしか見ていませんでしたが、久しぶりに本堂に入りますと、幼いころの日曜学校でのことが蘇り、ごく自然に阿弥陀様に手をあわせられました。」とお話くださいました。

私たちが生きている中で、出会う悲しい出来事、また何か深い縁で結ばれた人との出会いや言葉に突き動かされて、弥陀の本願に目覚めさせていただきます。これが尊いご縁です。世間の価値観に押し流され、今の真宗門徒は、素直に仏法が聞けなくなりました。

「南無阿弥陀仏」と称えてもそれによって願い事が叶うわけでも、スマホや家電のように生活が便利快適になるわけでもありません。「じゃあ、なんでとなえているの?」と問われたら、なかなかうまく答えられません。その答えは、宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要のテーマ「今、いのちがあなたを生きている」中にあります。

若者の明るい未来だけが、未来ではありません。命を終えていく未来も立派な未来です。未来を見据えて、今の今を生きたことが生きがいとなって、生きる目的がはっきりしてきます。宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要に長浜教区門徒会員一同が相集い、正信偈を唱和して親鸞聖人が明らかにされた真実のみ教えを共に聴聞し、共に念仏申す身になっていくことの幸せをいただく親鸞聖人の呼びかけにこたえる法要です。



了敬寺 夏休みの日曜学校の様子

1182年（10歳）

恵信尼誕生

1201年（29歳）

親鸞これまで堂僧を勤めた延暦寺を出て、六角堂に参籠、聖徳太子の夢告により源空の門に入る

御遠忌をお迎えするにあたって

第13組 真勝寺住職

三山 岳

自坊である松宮山真勝寺では、長浜・五村別院の七百五十回御遠忌法要に先立ち、今年の10月に御遠忌法要を厳修する予定で準備を進めています。半世紀ぶりの御遠忌であることから、一昨年に準備委員会を立ち上げ、昨年に行方委員会を結成しました。

50年前の御遠忌法要では、前々住職が先の大戦で戦死したため、そのあとを継いだ前任職も20代と若く、手探りのなかで行われました。当時の様子を知る方のお話では、御遠忌当日に大風で倒れたテントを建て直したり、車を持たれているご門徒に頼んで遠方の法話講師を送迎したり、門徒あげて作り上げた法要だったそうです。華やかな稚児行列や、外縁まで人があふれた満堂の様子は、当時まだ普及し始めたばかりのカラー写真に記録されていました。

今回の御遠忌を控えて、数年前に宮殿と須弥壇のお洗濯をしたところ、それらは100年前の六百五十回御遠忌の際に新調されていたことが分かりました。先人たちが親鸞聖人に対する感謝の気持ちと受け継ぎ、宗門の興隆と寺門の繁栄に尽力されてきた歴史を感じながら、準備を進めているところです。すでに御遠忌をされたお寺の法要では、どの人も笑顔にあふれ、御遠忌はお祝いなのだと思えました。自坊での御遠忌も、別院の御遠忌にその笑顔の輪が広がるような法要を目指したいと考えています。



御遠忌実行委員会 各部からのお知らせ

参拝部報告

1 両別院の参拝場所について

参拝場所については両別院ともに、本堂、大広間を使用し、すべて椅子席にします。
なお、大広間にはモニターを設置し、映像と音声をとおして本堂内の様子を中継します。

2 参拝計画について

・1日の長浜別院での日中法要は、帰敬式及び参堂列が行われるため、一般参拝(※1)のみとなります。また、晨朝法要についても、一般参拝のみとします。

・前記の法要以外の両別院の法要9座(五村別院 5座・長浜別院4座)に指定団参(※2)を行います。

・各組には、五村別院1座と長浜別院1座(計2座)の指定団参を依頼します。なお組の参拝日(座)は、参拝部で決定します。

・指定団参日を組当番出仕日とします。

・すべての指定団参は本堂内に席を用意します。一般参拝は本堂及び大広間となります。

※1 一般参拝…個人・グループでの参拝

※2 指定団参…参拝日及び人数を組ごとに指定する参拝

